

長良川の遡河マス中に発見した標識アマゴ

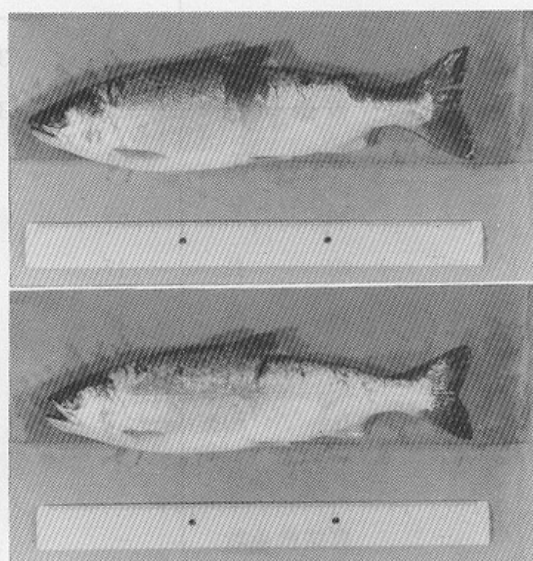
本荘鉄夫

Finding out the Marked Amago Salmon,
Oncorhynchus rhodurus, in the
Anadoromus Salmon at
the Nagara River.

TERUO HONJO.

著者は昭和46年5月、長良川の遡河マス（当地方ではカワマスと呼称）を調査中、たまたま入手した採集個体5尾の中に、45年に同川上流部に放流した標識アマゴ（第1図）と推定されるものを1尾発見した。このことは養殖アマゴの降海遡河への確信と、種苗放流による生態の究明、並びに増殖意図の引き金ともなった記念すべき事績でもあるので、ここに採集記録を留記するものである。なおこの標識魚の元ともなった標識放流は、昭和45年4月23日から9月6日の間、5回にわたり長良川上流部で行われたもので、放流稚魚数、118,900尾のうち46,900尾については標識として脂鰭を切除した。（第2図）放流時標識魚の平均体重は初期のもので2.9g、最終のものは24.3gで、ふ化後の月令で示すと、4ヶ月から8ヶ月となる。従って再

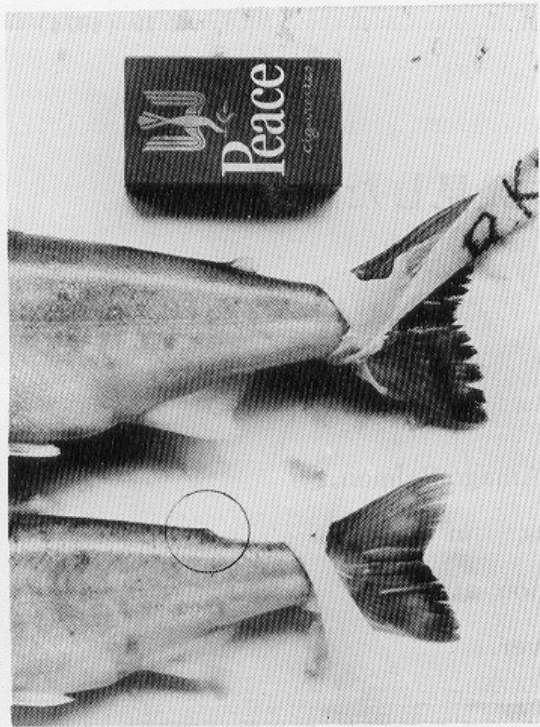
採集魚は放流後早くとも8ヶ月、遅くとも1年弱を経過したことになる。標本は昭和46年5月16日早朝、岐阜市合渡地先の長良川本流で流し



第1図 遡河マス、46.5.18採捕

上、無標識魚(RK-4)、下、標識魚(RK-5)

刺網(簀場網)により採捕したものである。



第2図 切除した脂鳍(下)
(中部新聞社撮影)

形 態

採集個体5尾は何れも雌で、卵巣は長さ40～60mm、幅5～10mm程度に発達していた。全般的な形態は肥満体で、体高比(被鱗体長÷体高)は3.84～4.20、平均3.98である。ちなみに加藤¹⁾が墨俣、立花で採集した標本の体高比(標準体長÷体高)は3.48～4.26、平均3.99である。頭部は概して小さく、吻部はとがっている。体色は背部が青藍色、腹部は銀白色を呈し、背部の小黑点は同形の養殖魚に較べるとはるかに少い。パーマークは不明か痕跡程度で、朱赤点は濃淡

第1表 遼河マスの形態測定表

標本番号	RK-1	RK-2	RK-3	RK-4	RK-5 (標識魚)
全 長	352 mm	338 mm	325 mm	309 mm	297 mm
被 鱗 体 長	322	307	296	279	269
体 高	81	73	74	72	70
頭 長	69	62	60	63	59
吻 長	17	18	16	18	17
眼 径	10.3	9.9	10.1	11.0	10.0
尾 柄 高	27	27	25	23	23
体 幅	49	48	43	39	38
背 鰭 軟 条 数	—	14	14	15	15
臀 鰭 軟 条 数	—	15	13	15	15
側 線 上 鱗 数	—	129	134	134	132
横 列 側 線 上 鱗 数	—	30	29	30	27
側 線 下 鱗 数	—	—	26	29	27

總 靶 数	—	21	19	21	19	19 (1974)
体 重	573	499	429	369	312	
性 別	♀	♀	♀	♀	♀	
パーマーク	不 明	痕 跡	痕 跡	不 明	不 明	
朱赤点の数	+++	++	+	+++	痕 跡	

+++ 多, ++ 中程度, + 少

の差, 多い少いの差はあるが何れにも存在し, 長良川に遡上したものと推定される。背鰭上部, 尾鰭後縁部の黒化は全てに見られる。

(標識魚について)

標識魚(第1図)と他の4尾の標本については, 形態的な相違は全く見られない(第1表)

恐らく標識魚は放流後間もなく完全に野性化し, 天然魚群と行動をともしながら, 降海し再び

文 献

- 1) 加藤文男, 1968 ; 長良川のカワマス, 木曾三川河口資源調査報告, №5

MINORU OKIZAKI, YASUHI UENO, NICHII TAJIURA

前報で白身り, 線身りの形付魚の出現率について報告した。本報では, 浅黄, 秋水の形付出現率について報告する。

試験の方法

1. 試験期間: 1972年6月1日—10月31日
2. 供試魚: 第1図に示したイシを産出した1972年5月新回魚より海入)を用い, 現居地産の雌雄1対1の交配を行ない, 産卵した卵を100個のふ化付魚を浅黄区約 100個, 秋水区約 1,500尾を用いた。

3. 飼料料: 培養池に動もってモシメを繁殖させておき, ふ化終了後各飼育池にポンプを用いて水とともに導入した。メシメを食べつづめた特設で, コイ用市販飼料に切替えた。

4. 選別: 類型の分類は, 大和鰭(一般の大和コイに見られる鰭(普通鰭)), 右尾鰭(大和鰭に類似を生じたもので, 体側全面に鰭はあるが, 大和鰭ほど整然でなく大きさも不規則である), 小和鰭(大和鰭が背部, 腹部, 側縁上に散在しているもの), フイン鰭(おびろコイの中で前縁の鰭が短縮しているもの), カワ鰭(背, 胸, 腹, 尾, 尾の各鰭基部に大和鰭の骨がに散在するが, 全く存在しないもの)に別けた。8月21